

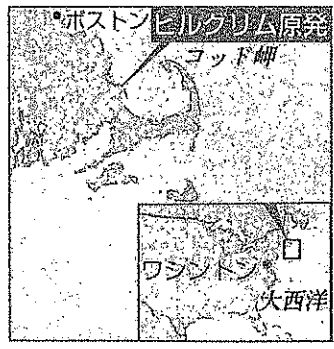
10/15
5/3

米東部の原発閉鎖へ

住民運動
実を結ぶ

福島第一と同型

【ワシントン＝島田峰隆】米電力大手エンタジーは13日、東部マサチューセッツ州プリマスにあるピル



グリム原発を2019年6月1日までに閉鎖すると発表しました。原子炉は福島第一原発と同型。ピルグリム原発では最近、事故が相次ぎ、周辺住民が廃炉を求め運動を強めています。

同原発は今年1月、悪天候に伴う停電で外部電源の一部を失って緊急停止。13年2月にも猛吹雪による停電で運転停止しています。米原子力規制委員会（NRC）は9月、アーカンソー

州の原発2基と合わせてピルグリム原発を「最高レベルの規制監督が必要」と発表していました。ピルグリム原発周辺の住民や環境団体でつくる「ピルグリム連合」のダイアン・トゥルコ氏は本紙に対し「住民が何年も求めてきたことが実を結びました。ただ2019年は遅すぎる。これから原発の利益か住民の健康かをめぐるたたかいが続きます」と話しました。

↓関連の面

リ基地反対協議会は同日、座り込みを続けている辺野古の浜のテントで記者会見し、翁長知事の埋め立て承認取り消しを支持する緊急声明を発表しました。

安次富浩共同代表は「これからも翁長知事、稲嶺進名護市長をしっかりと支えてたたかい抜いていく」と強調。声明は、知事の取り消しを全面的に支持するとし、全県や全国、全世界の人々にむけて知事・沖縄が孤立しないよう辺野古での座り込みへの参加を呼びかけ、「多くの人が集まれば基地建設は止められます」と訴えています。また、東京・武蔵野市議会、愛知・岩倉市議会などで辺野古新基地反対や地方自治の尊重を求める意見書が可決されていることを挙げ、多くの地方議会への働き掛けをよびかけています。

↓関連②③④面